

立川市立第一小学校・ 柴崎学習館・柴崎図書館・ 柴崎学童保育所



校舎棟／メインエントランス(写真:西川公朗)

review

選評

我々が直面している人口減少・超高齢化社会において、地域の核となる公共建築は、どのような姿をとるべきか。この建築はその回答例の一つとなっている。

人口が右肩上がりが増えてきた社会では、必要に応じて様々な公共施設が個別につくられてきた。それらの建設費と維持管理費は、増え続ける税金によって賄うことができるだろうと考えられていたのである。しかし人口減少社会に突入した今後は、大きな税金の伸びは見込めない。古くからの既存公共施設の維持管理費が日々増大していく中で、新しい施設は、できるだけコンパクトにつくり、共用化を図って無駄を省きたい。そして維持管理費を抑える工夫は必須であると考えられる様になって

きた。

敷地が集約される複合化のメリットは、このような経済的要請に答えるだけでなく、少子高齢化が進行中の社会で、世代間の交流にも役立ち、さらには地域社会の核づくりにも資する。

この施設は次世代を担う子供達が使う小学校・学童保育所を軸に、地域の人々がレクリエーションの場・生涯学習の場として使う学習館・図書館から成り立っている。これらの施設は共用することができ、機能を持ち、さらに複合化することで高機能化する内容もある。前者としては、地域開放を前提とした配置のランチルームや家庭科室などの小学校特別教室群があり、後者としては地域図書館と学校図書館の併設などがある。

道を挟んで敷地は大きく二つに分割されている。校舎棟は、小学校・図書館・学童保育所が一階に併設され、学習館の多目的ホールには、小学校の体育館が重ねて配置されていて、合理的な構造となっている。これらが二階にあるブリッジで繋がれ、管理区分を明確にしつつ施設の一体化が図られている。小学校のメインアプローチは、道路を挟んで学習館のロビーに面していて、地域の人たちが子供達を見守ることができる配置になっている。このアプローチに隣接して設けられている図書館には学校図書館が一体化し子供達は豊富な図書に触れることができ、一方、小学校の中庭は野外読書室となりうる構



校舎棟／屋上より1階中庭を見下ろす(写真:西川公朗)

《2018年 第59回 BCS賞受賞作品》太田市美術館・図書館／高知県立高知城歴史博物館／コープ共済プラザ／新豊洲Brillia ランニングスタジアム／すみだ北斎美術館／洗足学園音楽大学 Silvermountain&Redcliff (e-cube)／空の森クリニック／高崎アリーナ／多治見市火葬場華立やすらぎの杜／立川市立第一小学校・柴崎学習館・柴崎図書館・柴崎学童保育所／デンソーグローバル研修所・保養所「AQUAWINGS」／日本無線先端技術センター／パナソニック スタジアム 吹田／羽田クロノゲート／益子町地域振興拠点施設「道の駅まじこ」／【特別賞】名駅一丁目計画(JRゲートタワー、JPタワー名古屋)



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2018年で59回を数えます。



建築主より

Message from Building owner

立川市長

清水庄平 Shohei Shimizu

市内初の学校と社会教育施設の複合化

立川市立第一小学校は明治3(1870)年に開校し、今年度150周年を迎える国内有数の長い歴史を誇る公立小学校です。校舎の建替えに伴い、地域に点在していた柴崎学習館と柴崎図書館、柴崎学童保育所を集約し、市内で初の学校教育と社会教育の複合施設に生まれ変わりました。

本施設については、地域や保護者の方々も参加していただき、基本方針となるマスタープランを策定した後、2014年8月に落成式典を経て開設となりましたが、現在では異世代間の交流が促され、地域のコミュニティや学びの拠点となっています。

また、学校と社会教育施設の複合化事例について、国内のみならず海外からも視察があるなど、大きな注目を集めています。

今後も学校、地域、保護者の皆様が協力し、知恵を出し合いながら、子供達の豊かな成長を協働により支えていただければと思います。



設計者より

Message from Building designer

株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ
代表取締役

赤松佳珠子 小嶋一浩 Kazuko Akamatsu & Kazuhiro Kojima

地域住民の拠点となる複合施設、モードチェンジ可能な都市型小学校

敷地東側に校舎棟(小学校、図書館、学童保育所)、道路を挟んだ飛び地に学習館棟(柴崎学習館と学校の講堂兼体育館)を配置、道路上を3階のブリッジでつなぐ構成です。

校舎棟は、都市の中に建つコンパクトな校舎への応答として、風車状に離散配置した壁とそれらをつなぐ梁による構成、そこに可動間仕切りを設えました。可動間仕切りには、光の透過や吸音など様々なマテリアルによる機能を付加し、子供達の多様な活動に合わせてモードチェンジ可能な空間です。

学習館棟は、講堂兼体育館と多目的ホールを積み上げるシンプルな構成、体育館を2階におくことで学校施設としてのセキュリティを確保しつつ、地域施設としてのまとまりも期待しました。また1階の受付カウンターから校舎棟の正門が見渡せ、子供の通学風景を大人が見守る関係です。

地域住民の様々な活動が促される地域の拠点として、これからも活用されることを期待しています。



施工者より

Message from Builder

大成建設株式会社
建築営業本部 第一営業部 統括営業部長

堀圭吾 Keigo Hori

歴史と伝統ある立川市立第一小学校建設に携わることができ 施工者として思い出に残る工事となりました

本工事はRC壁式構造3階建ての校舎棟と地下1階地上3階プレキャスト壁式構造の学習館棟を渡り廊下で接続した2棟からなり、11,800m²規模の建物でした。学習館棟は市松模様のPC外壁にて構築された建物であり、技術センターにて性能確認実験を行い、施工に当りました。校舎棟においては、壁厚200mmの中に鉄骨梁と鉄筋が配置された壁式RC打放しとなっており、施工手順、精度管理など試行錯誤しながら工事を進めました。また、校舎棟には、今では珍しくなった人研ぎ仕上げの手洗い場が46カ所もあり、腕利きの職人達の技術にも触れることができました。施工難易度も高く、労務確保に厳しい時期でもあったため、工程管理にも苦労しましたが、「歴史と伝統ある立川市立第一小学校を熱意と情熱をもって造り上げよう」とのスローガンのもと、一致団結して工事を完成させることができ、思い出に残る現場となりました。



1. 校舎棟 / 2階昇降口前テラス 2. クラスルームとワークスペース
3. 柴崎学習館 / 多目的ホール 4. 柴崎図書館 / 内観 (いずれも写真: 西川公朗)

立川市立第一小学校・柴崎学習館・柴崎図書館・柴崎学童保育所 計画概要

- 建築主 立川市
- 設計者 (株)シーラカンスアンドアソシエイツ
小西泰孝建築構造設計
- 施工者 大成建設株
- 所在地 東京都立川市柴崎町2-20-3
- 竣工日 2015年3月13日

- 敷地面積 校舎棟 : 9,659m²
学習館棟 : 2,006m²
- 建築面積 校舎棟 : 3,561m²
学習館棟 : 1,227m²
- 延床面積 校舎棟 : 8,711m²
学習館棟 : 3,214m²

- 階数 地上3階、地下1階
- 構造 [校舎棟] 鉄筋コンクリート造、
鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造
[学習館棟] プレキャスト、
プレストレストコンクリート造、
鉄骨造、鉄筋コンクリート造

成となっていて、複合化のメリットが十分に活かされている。

小学校の教室空間は二・三階に配置され、二つの中庭を中心として卍型の構造壁と可動の間仕切り壁が組み合わされてできている。この空間は目的に応じフレキシブルに大きさを換えられ、日々の使い勝手に柔軟に対応するとともに、変化の大きいこれからの社会の動きにも充分追従可能であろうと思われた。一方、大空間を含む学習館は、リブ付きPC版が互いに積み上げられたPCaPC工法で出来ており、街並にリズムカルな独特の表情をつくり出している。

新築にともなう校舎の位置が移動し、グラウンド越しに古くからある諏訪神社の鎮守の杜が望めるようになった。新しくつくられた複合施設と神社を中心に、この場所一帯が、地域の核となっていくことだろう。

〔選考委員〕山本圭介・山本茂義・賀持剛